

淀川水系流域委員会 様

2003年7月17日

淀川水系河川整備計画についての質問とお願い

宇治市 防災を考える市民の会 梅原 孝

貴職のご奮闘に敬意を表しますとともに、真の住民のための河川整備計画が策定されますように多いに期待しております。

つきましては、この間の近畿整備局の河川整備計画に対して理解しがたい点がありますので近畿整備局に対して説明や資料の提出を要請していますが、流域委員会におかれましても私の下記質問についても充分なご討議をいただきますよう宜しくお願いいたします。

①、「昭和36年6月に総降雨量370mm、降雨日数6日間の雨がいった。これと同じ雨が現時点で降った場合には、後述する現在の操作規則に基づくシュミレーションによると、現在のように改修が進んだ瀬田川や琵琶湖の沿岸に湖岸堤やポンプ場が建設されている状態でも、琵琶湖水位98cm、浸水面積は約3,500ha、浸水日数23日（琵琶湖水位BSL+30cm以上）となっています。」と近畿整備局は説明されています。

しかしS36年当時と比べて洗堰の放流量が増えていることやS47年から25年間にわたる1兆9千億円の巨費を投じた「琵琶湖総合開発事業」の進捗効果を考えた時、浸水日数がわずかに1日しか減らないなどと言うのは、理解しがたい説明であります。なぜそうなるのか明らかにしていただきたいと思っております。

②、S34年8月の洪水では、S28年の2割増しの320mmの総降雨量が琵琶湖流域に降ったと言われております。しかしながら初期水位が0cm付近でS28年の時より20cm低かったため、30cmに戻るまで17日であったと言われております。資料のシュミレーションでは36年の初期水位がわかりませんがH7年のシュミレーションでは、初期水位20cmと比較されています。これをS34年洪水時のように水位0cmでシュミレーションすれば、1500トン放流の効果と同じような効果が出ると思われるのですが、ご検討頂きたいと思っております。

③、S47年7月の雨量が各資料で違いますが、いずれが正しいのでしょうか。

④、「1500 m³/s の必要性については、S29年の淀川水系改修基本計画において中流部安全度1/80で計画され宇治川900 m³/sとしていたが、その後頻発する洪水を考慮し抜本的に安全度の見直しを行いS46年の工事实施基本計画改定で治水安全度を1/150に引き上げた結果、宇治川での能力は1500 m³/sが必要となったものです。」と近畿整備局は回答されています。S28年に宇治川での最大流量1780 m³/sを記録していることやS39年には天ヶ瀬ダムが完成しているのに、1500 m³/sにされたのはなぜか理解できません。

⑤、「治水安全度を1/150に値上げた結果、宇治川での能力は1500 m³/sが必要となつ

たもの」として流域での堤防強化などの工事がされてきたと思います。天ヶ瀬ダム再開発計画ではそこに計画能力一杯の $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ の流量を 10 日間ほど流し続けるというものですが、S46 年の改訂ではこの事も含めた内容になっていたのでしょうか。

また整備局も指摘されているように、宇治川には今でも $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ も流せない箇所が多数存在しています。私たちは 5 月 24 日に現地フィールドワークを実施しましたが、住民の方から不安の声を多数聞きました。問題箇所の宇治川断面積、流速、堤防の強度など、現在の $900 \text{ m}^3/\text{s}$ 放流時の状況、そして $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ 放流時の予想される状況について資料を公表し、審議を徹底していただきたいと思います。

- ⑥、H15.4.21、第 20 回委員会の天ヶ瀬ダム再開発説明資料で「瀬田川の流下能力の増加・琵琶湖水位 1.4m では $1100 \text{ m}^3/\text{s}$ 程度しか流れない」と指摘。第 2 稿では「急激な水位の低下が環境破壊を招く」と何ヶ所かで指摘されています。 $1100 \text{ m}^3/\text{s}$ 程度しか流れないのが琵琶湖の自然の姿であり琵琶湖自身の環境を守ることにはなっていないのでしょうか。琵琶湖周辺ではこの自然な状態で治山治水を考える必要があると考えますが、充分なご審議をお願いします。
- ⑦、質問に対する回答資料集では整備局自身も「浸水被害は皆無にすることはできない。そのために瀬田川、宇治川の改修を行います」と回答されています。 $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ を 10 日も流されては宇治川周辺は不安で危険な事態が予想されます。昔の人は、「大洪水になれば必ず浸水被害が出る、だから予想される浸水地域には、税の免除など行政の厚い施策を行って対応した」と言われています。琵琶湖周辺の浸水地域に対しこのようなことも実施して危険な $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ 放流の見直しを行なっていただきたいと思います。
- ⑧、 $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ 放流の見直しを行なっていただきたい理由の一つに、放流による低周波振動があります。第 20 回委員会の説明資料では「工事完了後調査検討する」とされていますが、周辺に住んでいるので今でも天ヶ瀬ダムの 3 門放流が始まると家が振動するのですぐわかります。一度調査されましたがその結果がわかりません。まして $1500 \text{ m}^3/\text{s}$ 放流されれば不安です。工事完了後でなく今事実を明らかにして対策をとって欲しいと思います。
- ⑨、S34 年 8 月の洪水では、S28 年の 2 割増しの 320mm の総降雨量が琵琶湖流域に降ったと言われています。しかし宇治川の流量は S28 年が $1780 \text{ m}^3/\text{s}$ で S34 年は $1250 \text{ m}^3/\text{s}$ でした。この差はなぜか。S28 年の時には、大量の土砂が大峯ダムを埋め尽くしたためではと思われませんが、天ヶ瀬ダムの堆砂の状況とその対策について明らかにしてください。
- ⑩、最後に BSL+30 c m の通常水位以上になればすべて浸水日数にカウントされていますが、琵琶湖総合開発事業の効果のもとで実際にはいくらの水位になれば浸水被害が出るのでしょうか。質問集を拝見いたしますと、琵琶湖沿岸の中主町の方の浸水被害でご苦労された経験が載っています。そのご苦労に敬意を表しますとともに、私たちも上流下流の苦労を共有できるように、近く琵琶湖湖岸の浸水常習地域のフィールドワークを実施

したいと考えています。つきましては、現在でも浸水する箇所を明らかにするとともに、宇治川への1500トン放流しか改善の道がないのか徹底した審議をお願いします。